

石垣島のみちづくり基本計画

(石垣島内道路網整備基本計画)

【概要版】

令和5年1月

沖縄県

第1章 石垣島内道路網検討の概要

1-1 背景及び目的

- ・ 新石垣空港開港に伴う道路交通体系の変化や交通量の増加等を把握し、将来道路網の検討に加えて、関連する多様な施策（多様な手段を考慮した道路空間の構成、道の駅等の拠点の構築と活用、イベント時の活用等）の体系化を行うことを目的として、平成 28 年 3 月に『石垣島のみちづくり基本計画』が策定されました。
- ・ 本計画では、『石垣島のみちづくり基本計画』に位置付けられた進捗状況を検証するとともに、島内外の社会情勢の変化（関連する計画の改定なども含む）などを踏まえ、計画の改定を行うものである。

1-2 計画の位置づけ

本計画は、上位計画である「新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」及び「沖縄県総合交通体系基本計画」などの実現に向けた、県及び石垣市における石垣島の道路整備に関する総合的な基本計画として位置付ける。

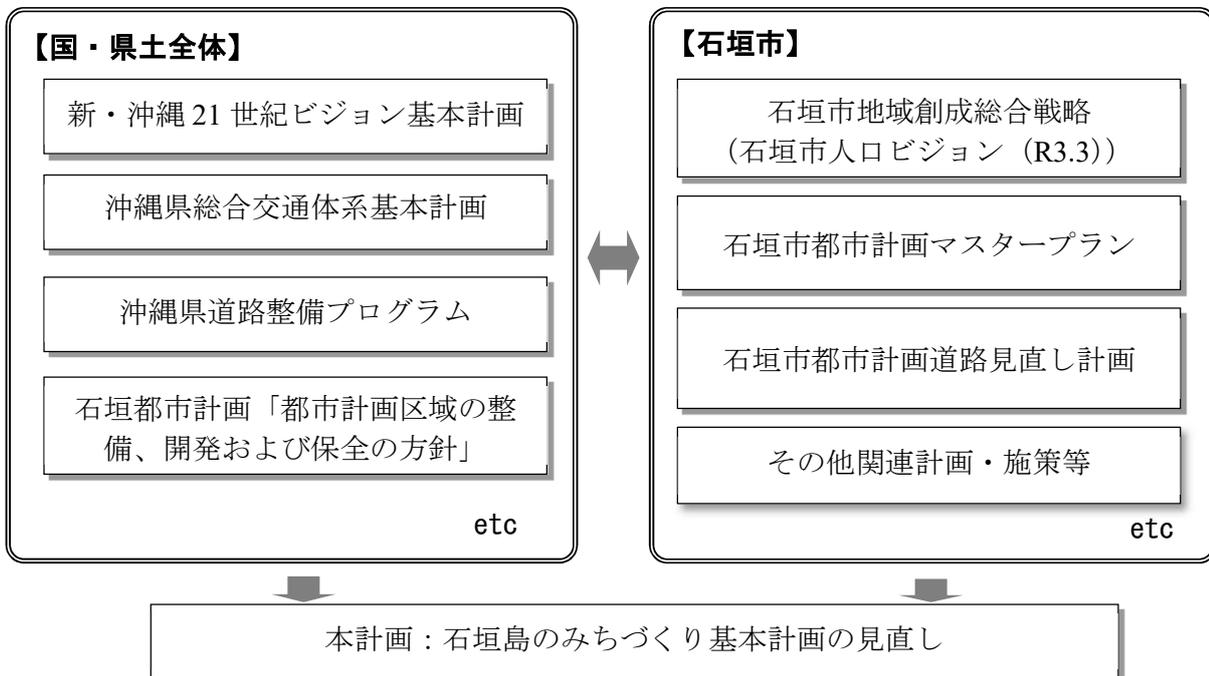


図 1-1 計画の位置づけ

1-2-1 計画の期間

上位計画である「新・沖縄 21 世紀ビジョン」が概ね 20 年の後期を想定していることを踏まえ、本計画の目標期間は令和 13 年とする。

1-3 石垣島内道路網計画見直しの取りまとめイメージ

石垣島内道路計画見直しの構成イメージを下記に示す。

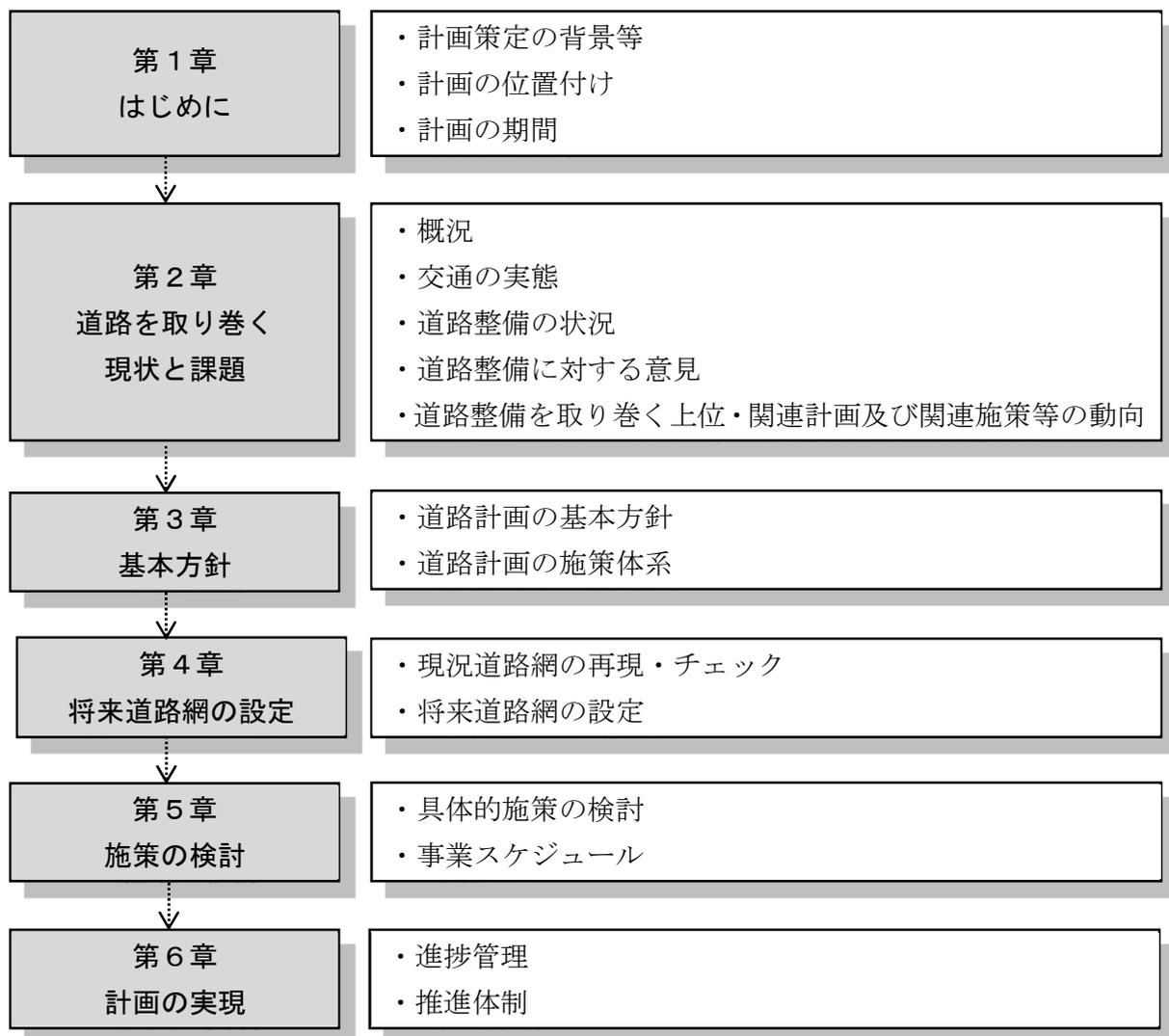
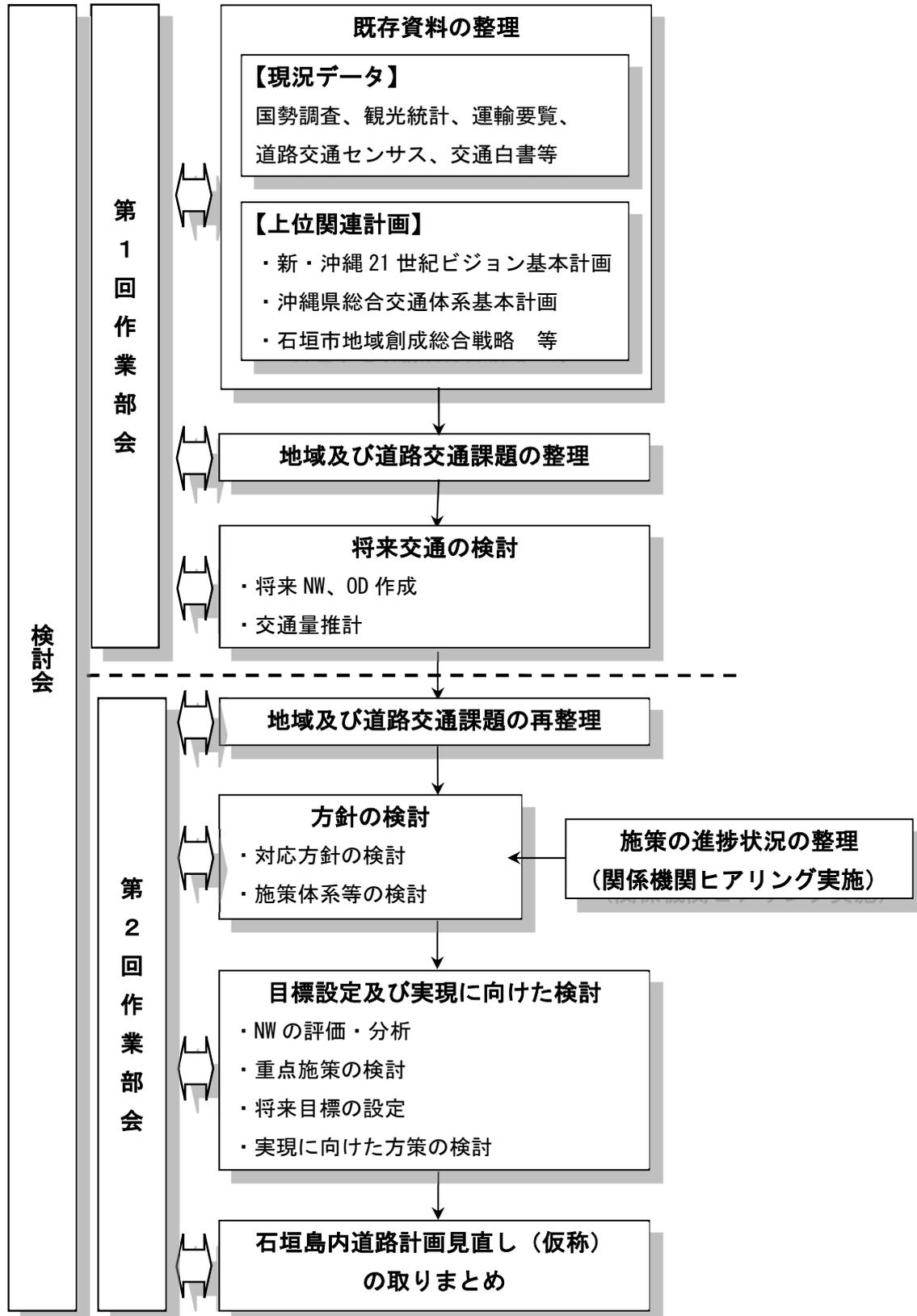


図 1-2 計画の構成

1-4 検討内容

検討内容および検討フローを下記に示します。



第2章 道路を取り巻く現況と課題

2-1 社会動向の整理

2-1-1 人口の動向

- 将来人口予測においても、石垣市は2020年（令和2年）にピークを迎え、人口減少期に突入するものと予測されている。

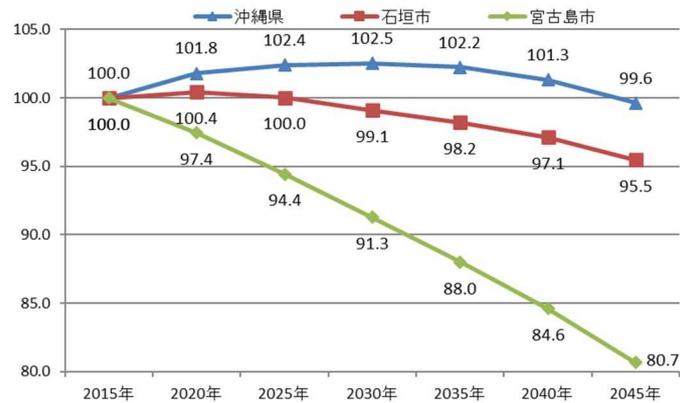
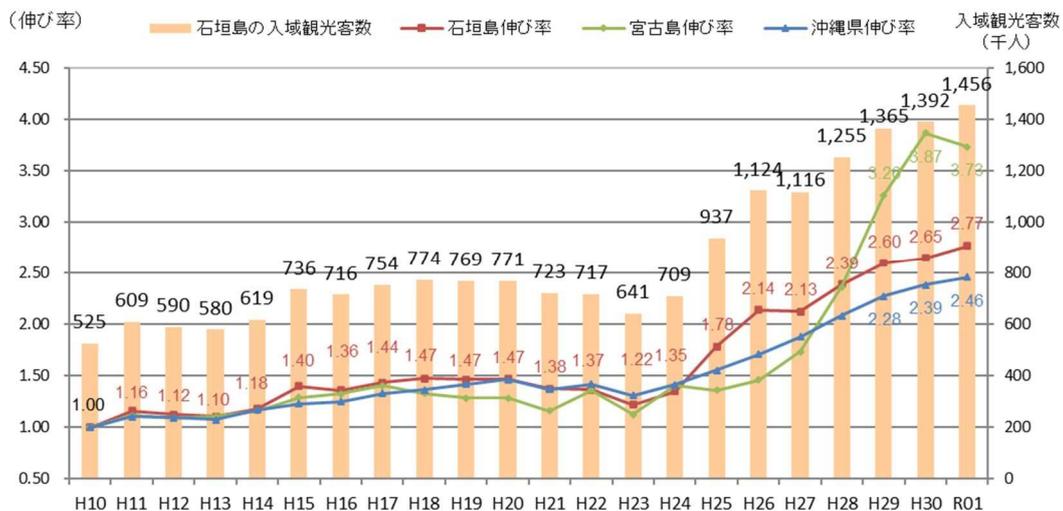


図 2-1 将来人口の推移（2015年（平成27年）の人口を100とした場合）

資料：国立社会保障・人口問題研究所

2-1-2 観光客の推移

- 入域観光客数は、新石垣空港開港以降、大幅に増加し、令和元年度では140万人を突破しており、平成10年度の約2.7倍となっている。



出典「離島関係資料」

図 2-2 入域観光客数の数値

2-2 島内の交通・道路の現況、問題の把握

2-2-1 交通量の推移

- 石垣島におけるセンサス交通量について、センサス観測地点の総走行台キロに着目すると、平成11年まではほぼ横並びだったのが、平成17年において大幅に増加し、平成22年、平成27年では再び横並びとなっている。

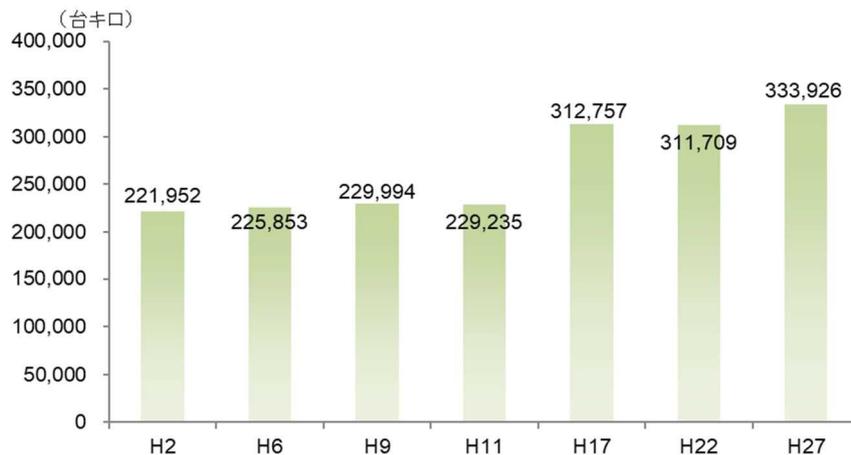
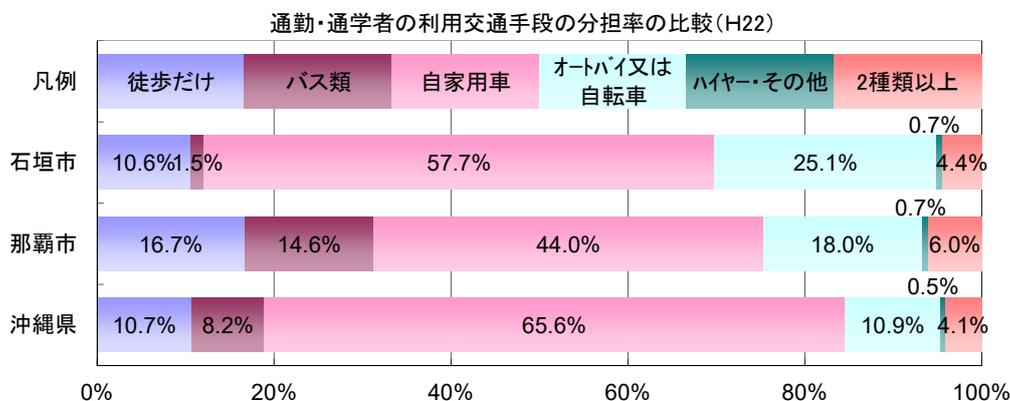


図 2-3 石垣島のセンサス交通量調査観測地点における総走行台キロ

資料：センサス交通量調査

(1) 交通手段の分担率（通勤・通学）

- 石垣市における通勤・通学者の利用交通手段の分担率の経年的な変化に着目すると、自家用車が増加しており、バス類等の公共交通利用者は減少している。
- また、石垣市はオートバイ又は自転車の二輪車の分担率が高い傾向にある。



資料：国勢調査

図 2-4 通勤・通学者の利用交通手段の分担率の比較（H22 国勢調査）

2-3 道路整備状況

(1) 道路の整備状況

- 石垣市の道路の改良率については、沖縄県や宮古島市と比較すると低い。

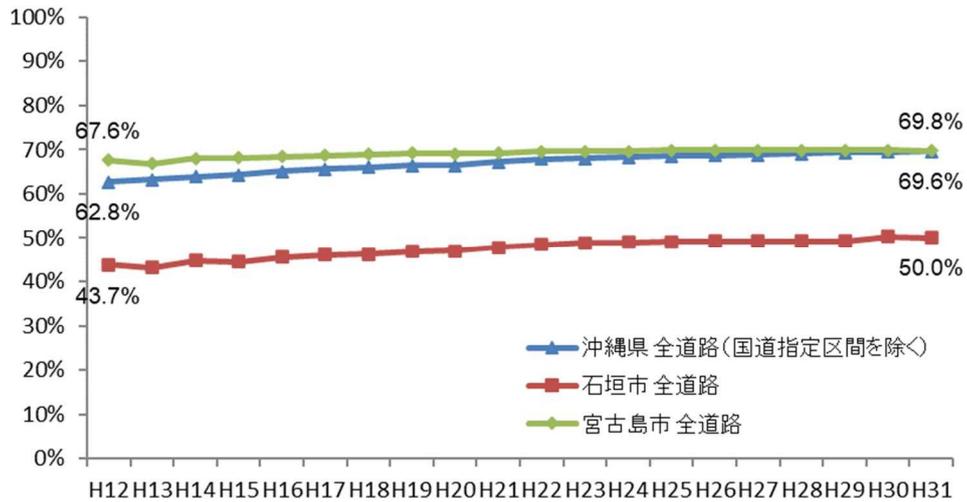


図 2-5 改良率の推移

資料：道路施設現況調査

(2) 都市計画道路の整備状況

- 石垣市の都市計画道路の整備率の推移はほぼ横ばいとなっており、沖縄県全体および宮古島市と比較すると整備率が低い。
- 市街地の主要横断道路である、横4号線（拡幅整備）と二中北通り線（新規道路）が未整備。

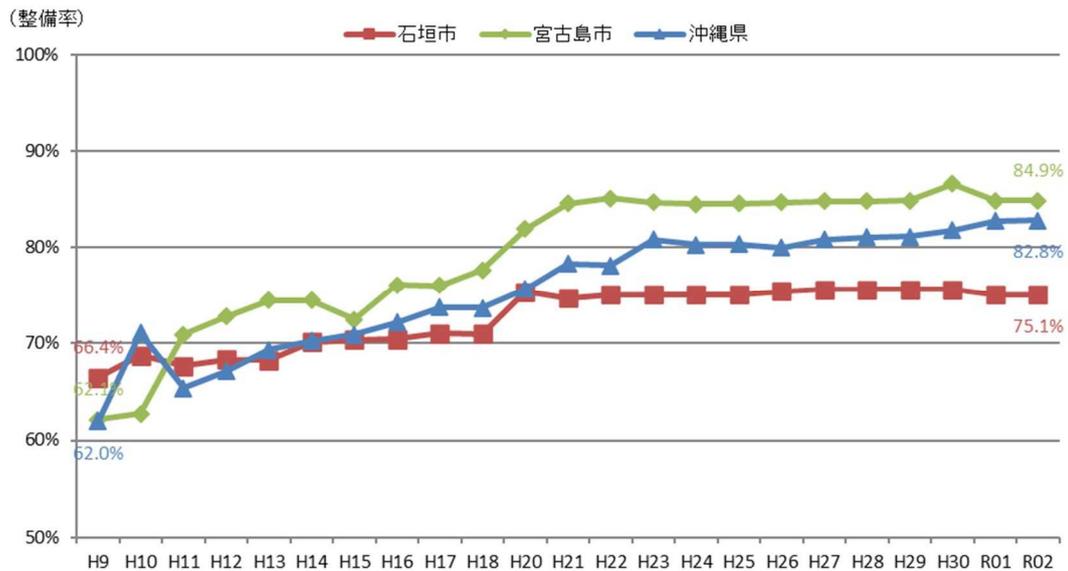


図 2-6 都市計画道路整備率の推移

資料：都市計画年報

2-4 その他

2-4-1 歩道の整備状況

- 市街地部では、県道区間（一般県道石垣浅田線）や市道の幹線街路（横4号線）においても未整備区間が存在し、歩行者空間が確保されていない状況である。
- 学校周辺の歩道ネットワークの整備が必要。



図 2-7 市街地部の道路の状況（左：一般県道石垣浅田線、右：市道横4号線）

2-4-2 道路の維持管理

- 歩行者が少なく、管理が行き届いていない歩道や植栽などについて、観光地として適切な道路植栽の維持管理を行うことが必要であると考えられる。
- また、道路の陥没や亀裂等の破損についても維持管理を行うことが必要であると考えられる。
- 限られた予算の中、維持管理しやすい道路構造や、地域と連携して効率的に維持管理を行う仕組みづくり等が必要であると考えられる。



図 2-8 維持管理の状況（左：郊外部の歩道の状況、右：道路植栽の状況）

2-5 地域及び道路交通の課題の整理

石垣島の現状及び問題点、上位計画の施策方針等を踏まえ、石垣島における道路交通の課題を下記のとおり抽出した。

石垣島の概況及び問題点

課題課題
課題課題
1 2 3 4 5

■石垣島の概況

- 人口は2020年を目途にピークを迎え人口減少期へ移行、高齢化が進んでいる
- 新空港開港以降、観光客が大幅に増加、クルーズ船利用観光客数も年々増加傾向
- 自動車保有台数の増加
- 通勤、通学者の利用交通手段は、二輪車（オートバイ又は自転車）の分担率が約2割で県全体と比べ高い
- バス利用者は、新石垣空港開港後、大幅に増加
- レンタカー登録台数は、新空港開港以降、大幅に増加
- 島内の交通需要量では、登野城を中心に市街地内々の交通需要量が多い
- 電動スクーターによる島内観光など、新たなモビリティが浸透
- ● 自動運転実証実験が行われ、日本における課題解決先進地としての取り組みを先行

■道路交通に関する問題点

- 新空港開港以降、レンタカーによる交通事故が増加
- 新空港開港後、空港への主要アクセス道路の交通量が増加
- 市道や農道に10km以上の長いトリップ交通が流入
- 石垣市の道路改良率は、沖縄本島及び宮古島市と比べ低い
- 石垣島内の道路関連事業は、島内周遊道路に多く、横断道路が未整備
- 長期未着手都市計画道路が存在するなど、市街地において歩道の未整備区間が多い
- 石垣島観光へのニーズとして、「石垣島の物産を買うことができる施設（道の駅等）」が上位
- 道路植栽の維持管理が行き届いていない
- 台風による電柱倒壊や道路冠水、陥没等が発生
- 津波の被害予測では、沿岸地域の幹線道路の大半が浸水
- レンタカー利用者のニーズとして、わかりやすい案内標識やロードパーク等の休憩施設整備が上位
- 市街地において、道路幅員が狭いこと等から緊急車両や路線バスが通行できない箇所がある
- 市街地において、優先道路が分かりづらい等の理由により事故が発生
- 公共交通を利用した主要観光施設への利便性が悪い
- 自転車対向車線に進入するなど、交通事故の危険がある
- ● 電動スクーターなどの新たなモビリティに対応した道路の利用方法に関する注意喚起をする必要がある
- ● 自動運転の実現に向けた取組を継続的に行う必要がある
- ● MaaSの普及に必要な基盤づくりを推進し、公共交通の利用を促進する必要がある
- ● 自転車走行空間の整備と活用を促進
- ● 建設施工における低炭素化のためのICT施工の推進
- ● 安全で快適に滞在や移動ができ、交通事故のない生活空間の形成

関連上位計画

■国全体の道路政策の方向性

《道路法等の一部を改正する法律案》

- 物流生産性の向上のための特殊車両の新たな通行制度の創設
- ● 民間と連携した新たな交通結節点づくりの推進
- ● 地域を豊かにする歩行者中心の道路空間の構築
- ● ● 自動運転を補助する施設の道路空間への整備
- ● ● 道路ネットワークの整備やDX、ICT等を活用した省エネ化の推進

《カーボンニュートラル》

- ● 2050年までに、脱炭素社会の実現を推進
- ● MaaSの普及に必要な基盤づくりによる公共交通の利用促進や自転車の利用環境整備と活用促進

■石垣市のめざす姿

《石垣市総合計画》、《石垣市都市計画マスタープラン》

《石垣市都市計画道路整備プログラム》

- 都市活動を支える道路網の形成
- ● 快適で安心できる道路空間の形成
- ● 最南端の自然文化都市にふさわしい交通環境の実現

《石垣市地域公共交通計画》

- ● 持続可能な公共交通ネットワークの構築
- ● ネットワークを支えるまちづくりと一体となった結節点の構築
- ● 多様な交通手段と一体となった交通システムの構築
- ● 地域と共に守り・育てる公共交通

《旧石垣空港跡地利用計画》

- ● 防災、医療福祉系機能による拠点形成

《石垣市スーパーシティ構想》

- ● ● 様々な移動手段を組み合わせ、連携MaaSモデルの確立
- ● ● 統合GISとIoTセンサーを組み合わせた防災・減災体制の強化

■県土全体の方向性

《新・沖縄21世紀ビジョン基本計画》

- ● ● (県全体)環境を保全し、持続可能な発展により生活の質を向上させ、DXに向けた時間と空間を超えるICT化を推進
- ● ● (県全体)SDGs、Society 5.0、MaaS等の社会への対応を踏まえた新たな地域と交通のあり方を検討
- ● ● (県全体)脱炭素化に配慮した空港・港湾機能の高度化等に取り組む「低炭素化及び省エネルギー化の推進」
- ● ● (県全体)新技術を活用し道路空間の有効的な活用に取り組む「体系的な道路ネットワークの構築」
- ● ● (県全体)都市機能を都市の拠点に集約し、公共交通の沿線等に居住の誘導を図る「歩いて暮らせる環境づくり」
- ● ● (県全体)緊急輸送機能を持つ施設の整備に取り組む「緊急時における輸送機能及び避難地等の確保」
- ● ● (八重山)シームレスな交通体系の構築や石垣空港跡地における新たなまちづくりの検討が必要
- ● ● 離島の定住条件整備に資する交通基盤整備と交通ネットワークの充実強化

《沖縄県総合交通基本計画》

- ● 歩道等道路空間のバリアフリー化の推進
- ● 車に頼らず移動できる交通システムの拡充
- ● 無電柱化の推進や代替経路の確保等による災害に強い交通体系の整備
- ● 景観等アメニティに配慮した交通環境の整備、道路植栽の推進

《石垣都市計画「都市計画区域の整備、開発および保全の方針」》

- ● 幹線道路、補助幹線道路、生活道路を効果的に結ぶ都市計画道路の整備推進
- ● 歩きやすく利用しやすい交通施設整備の推進
- ● 自転車利用を促進する交通施設整備

《沖縄県緊急輸送道路ネットワーク計画》

- ● 災害時に必要な人員及び物資等の輸送を確実に実施するための緊急輸送道路の整備を計画的に推進

《沖縄県離島地域道路啓開計画》

- ● 災害発生時に救援・救護活動を支える緊急輸送体制を早急に確保

石垣島における道路交通の課題

●課題1：魅力ある道路空間の課題

- 最南西端の豊かな自然や景観、固有の文化等に配慮した交通環境空間の整備が必要
- 観光客のニーズに対応した道路施設（休憩施設・道の駅等）の整備が必要
- 島内全体のイベントや地域活動でも活用しやすい道路空間・賑わい空間の整備が必要
- 島民のみならず国内外の観光客にわかりやすい道路利用環境の整備が必要

●課題2：多様な移動手段の課題

- 周辺環境（学校や保育施設等）に対応した歩行者空間の連続化が必要
- 利用者が多い自転車の利便性を向上させる自転車走行空間の確保が必要
- 公共交通の利用促進に向け、交通結節点・モビリティハブ等の整備が必要
- 様々な移動手段（シニアカー等）に配慮した空間整備が必要

●課題3：安全な道路環境の課題

- 台風等の災害時における代替経路の確保や道路空間が必要
- 道路構造が原因となる交通事故を未然に防ぐ安全対策が必要
- 地域のニーズに合わせた走行環境の整備・維持修繕が必要
- 緊急輸送機能の確保及び道路啓開作業を円滑かつ確実に実施可能な道路ネットワークの計画的な構築が必要

●課題4：体系的な道路網の課題

- 新石垣空港と石垣港（離島ターミナル）のアクセス強化が必要
- 市街地部から延びる放射道路や郊外部の横断道路の強化が必要
- 農道や生活道路に入り込んでいる通過交通への対策が必要
- 旧空港で分断されていた周辺道路ネットワークの改善や新たな開発を支援する道路整備が必要
- 市街地部における主道路と従道路の整理が必要

●課題5：新たな技術を活用するための課題

- 道路維持管理などでのICTの利活用が必要
- 新技術（自動運転等）に対応した空間整備が必要
- MaaSの活用によるシームレスな交通体系の構築が必要
- 自動運転等の最先端サービスを実装した「スーパーシティ」の実現を支援する取り組みが必要
- AI、IoT、ビッグデータ等の先端技術を活用した道路利用の効率化を図るための道路空間の構築が必要

凡例「石垣島における道路交通の課題」に対応 ●：課題1、●：課題2、●：課題3、●：課題4、●：課題5

第3章 方針の検討

3-1 道路整備の基本方針

石垣島における道路交通の課題

- 魅力ある道路空間の課題
- 多様な移動手段の課題
- 安全な道路環境の課題
- 体系的な道路網の課題
- 新たな技術を活用するための課題



石垣島における道路整備の基本方針

石垣島では、道路がもつ様々な機能(交通機能、空間機能)を効果的に活用した“島のみちづくり”として、以下に示す5つの方針にもとづき、体系的かつ一体的に施策を展開します。

方針1: 歴史・自然・景観等を活かした魅力ある“島のみちづくり”

- 美しい景観や豊かな環境と調和した道路
- 地域の活性化につながる賑わい空間を創出する道路

方針2: 身近な生活を支える“島のみちづくり”

- 生活の基盤を支える道路
- 生活の質を高める道路

方針3: 安全・安心を支える“島のみちづくり”

- 災害に強く信頼性の高い道路
- 安全な暮らしを確保する道路

方針4: 交流を支える“島のみちづくり”

- 地域交流や経済活動を支援する道路
- 環境の変化に対応できる道路

方針5: 新技術を活用した発信力のある“島のみちづくり”

- 計画・整備・維持管理の効率化・最適化が図られた道路
- シームレスな交通環境を実現する道路

3-2 各方針に基づく施策体系

1. 歴史・自然・景観等を活かした魅力ある “島のみちづくり”

歴史・自然・景観等を活かした魅力ある“島のみちづくり”では、石垣の特色ある豊かな自然環境や歴史文化の魅力を伝える“美しい景観や豊かな環境と調和した道路”の視点と、交通の機能にとどまらず道路空間を様々な用途に活用し、人の交流を促す“地域の活性化につながる賑わい空間を創出する道路”の視点で、体系的な施策を展開する。

(1) 美しい景観や豊かな環境と調和した道路

① 調和した景観づくり

日本の最南西端の豊かな自然や固有の文化と調和した景観づくりを展開する。

- ・ 風光明媚な景観と調和した道路整備
- ・ 来訪者をもてなす景観整備
- ・ 民間資金等の活用や地域住民と連携した観光地としてふさわしい道路空間の維持管理
- ・ 快適な通行空間及び良質な景観形成のための無電柱化の推進

② 自然環境の保全

石垣島の豊かな自然と貴重な動植物の保全に配慮した道路整備を推進する。

- ・ 貴重動植物を保全する道路整備（平久保エコロード等）
- ・ 施工時の自然環境への配慮

(2) 地域の活性化につながる賑わい空間を創出する道路

① 道路空間の魅力を高めた賑わいの場を創出

市街地部の街路や郊外部の道路と一体となった魅力ある空間を整備するとともに、地域における賑わいの場となる道路空間の整備を推進する。

- ・ 景勝地における休息場所やビューポイントの整備（展望台、ロードパーク、道の駅等）
- ・ 道路空間を活用した賑わい空間の創出（ポケットパーク、広幅員歩道等）
- ・ 外国人を含む全ての来訪者にとって分かりやすいサイン（表示や案内板）の整備

② 様々な取組で活用できる道路空間の創出

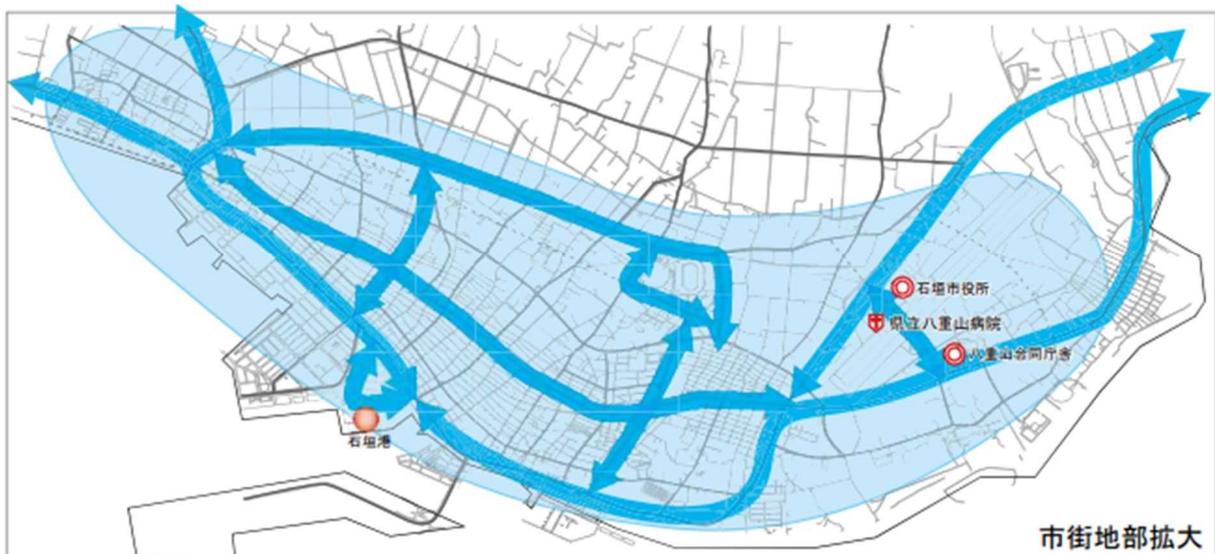
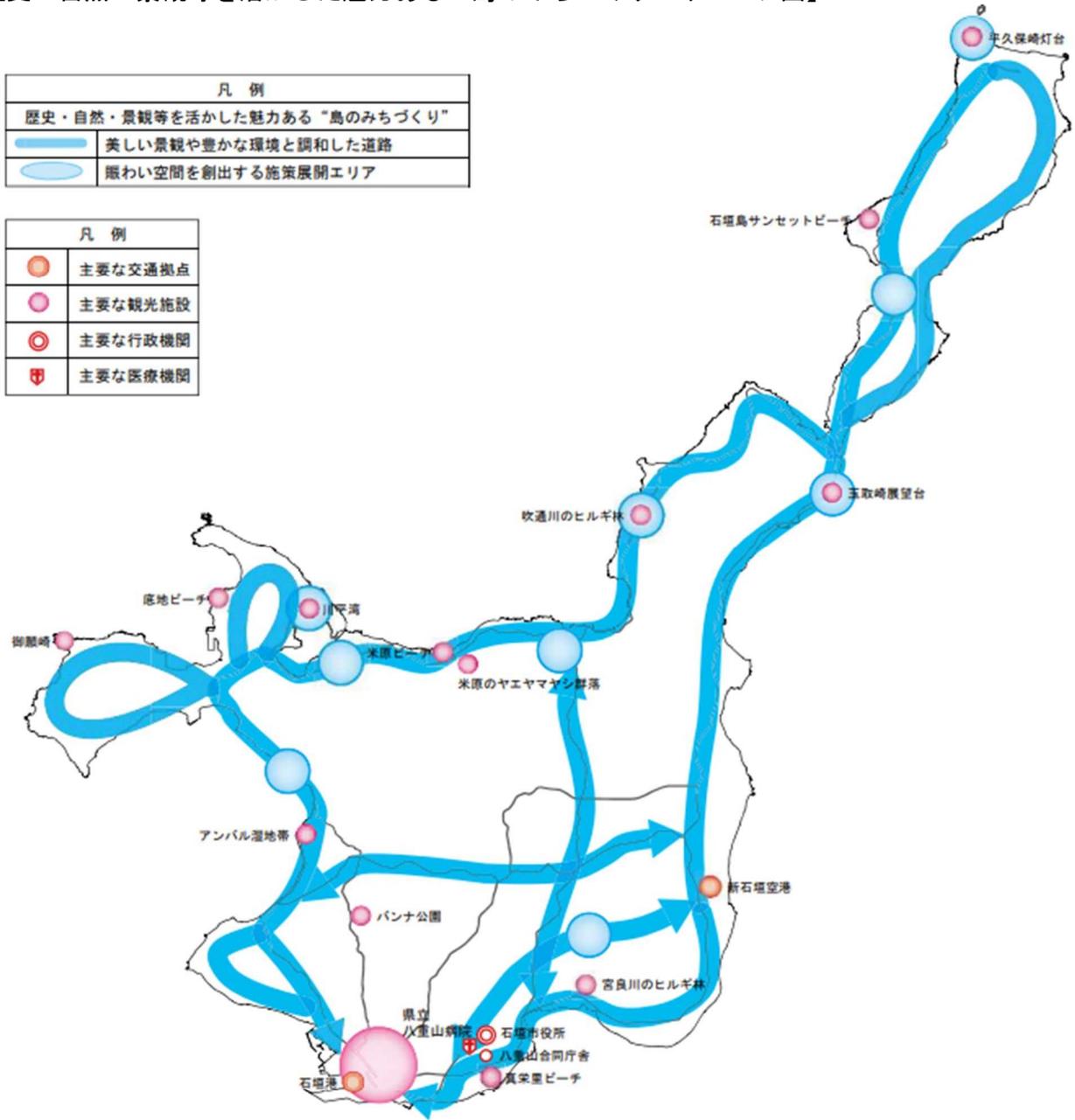
様々なイベントでの活用や先導的な取組と連携した道路空間の整備及び運用を推進する。

- ・ 観光周遊自転車ネットワークの整備
- ・ アスリートや観光客に配慮した道路整備
- ・ 先導的な取組の実証実験の場としての活用
- ・ 電気自動車や電動バイクをはじめとした次世代の乗り物の普及促進への支援（道の駅等の道路空間を活用した充電施設の設置）

【歴史・自然・景観等を活かした魅力ある“島のみちづくり”イメージ図】

凡例	
歴史・自然・景観等を活かした魅力ある“島のみちづくり”	
	美しい景観や豊かな環境と調和した道路
	賑わい空間を創出する施策展開エリア

凡例	
	主要な交通拠点
	主要な観光施設
	主要な行政機関
	主要な医療機関



2. 身近な生活を支える “島のみちづくり”

身近な生活を支える“島のみちづくり”では、歩行者・自転車・公共交通を中心に日常的な生活を支える“生活の基盤を支える道路”の視点と、今後の生活を取り巻く環境の変化に対応して、道路の快適性を向上させる“生活の質を高める道路”の視点で、体系的な施策を展開する。

(1) 生活の基盤を支える道路

① 歩行者・自転車空間の確保

市街地部における日常的な歩行者、自転車等の移動空間の整備を進めるとともに、歩行空間のバリアフリー化や無電柱化、通学路の整備等、関連する施策を推進する。

- ・ 児童生徒をはじめとした歩行者の安全かつ円滑な通行を確保する歩道整備や無電柱化
- ・ 自転車の円滑な走行を実現する自転車走行環境の整備
- ・ 自転車一周線整備に合わせた環境整備
- ・ 高齢者や障害のある方等がスムーズに移動できる歩道空間のバリアフリー化
- ・ 歩行者専用空間の導入促進

② 公共交通の利用促進の支援

誰でも安全で快適に公共交通機関を利用できるよう、バス停上屋やベンチ、バス停周辺の歩道の整備や、まちづくりと連携した交通結節点等の施策を推進する。

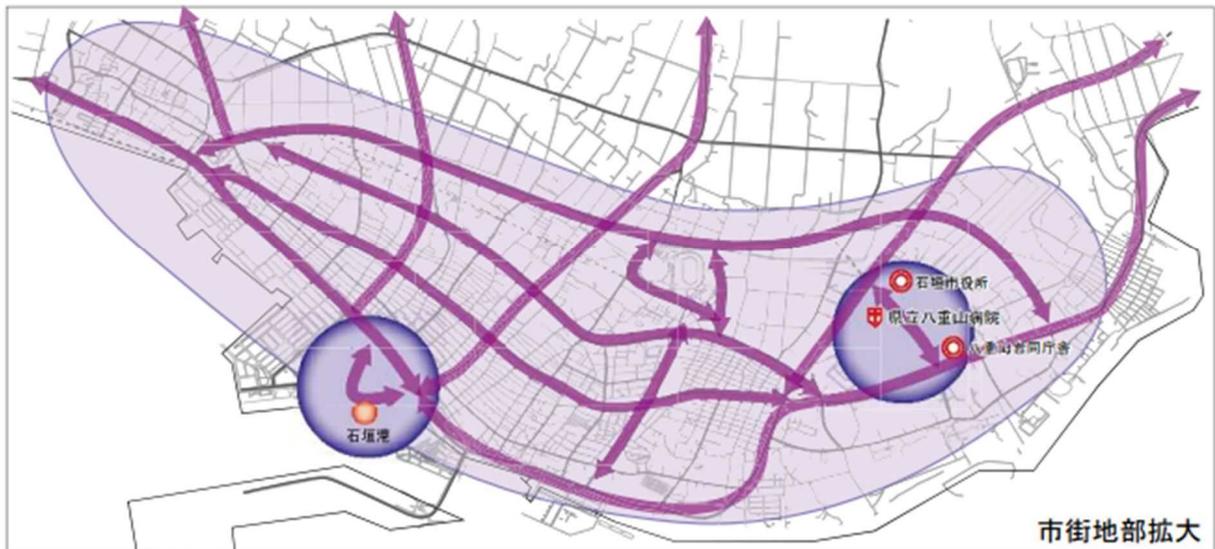
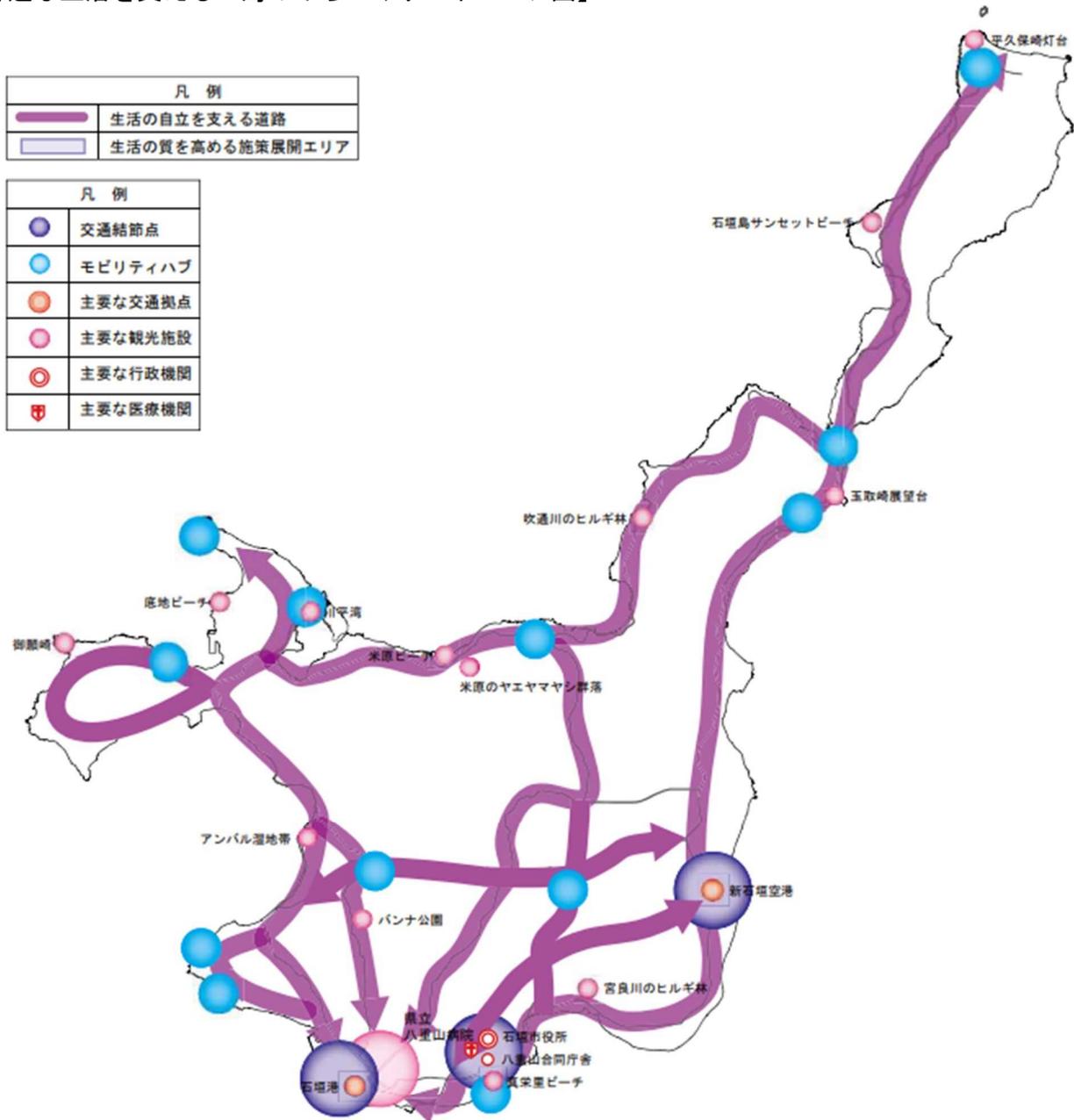
- ・ 路線バスの利用環境改善（上屋及びベンチの整備、バス停部のマウントアップ化等）
- ・ 市街地部における公共交通の走行環境の確保
- ・ 交通結節点、モビリティハブ等の整備

(2) 生活の質を高める道路

道路を利用する全ての人の生活の質が高まるよう、快適性を向上させる施策を推進する。

- ・ 高齢化社会に対応した、様々な移動手段（シニアカー等）の環境整備
- ・ 健康増進に寄与する歩行環境の整備
- ・ 外国人を含む全ての人にも直観的にわかりやすく使いやすい空間整備の導入促進（ユニバーサルデザイン）

【身近な生活を支える“島のみちづくり”イメージ図】



3. 安全・安心を支える “島のみちづくり”

安全・安心を支える“島のみちづくり”では、石垣島で発生する可能性がある災害を見据え、緊急時の活動等を支える“災害に強く信頼性の高い道路”の視点と、交通事故の防止や道路機能を維持確保する“安全な暮らしを確保する道路”の視点で、体系的な施策を展開する。

(3) 災害に強く信頼性の高い道路

① 災害に強い道路ネットワークの形成

日常的に襲来する台風及び今後発生する可能性のある明和クラスの大津波などの災害時において、緊急避難や救急医療に対応できる道路ネットワークの形成を推進する。

- ・ 広域防災拠点、避難施設、交通拠点等と連携した緊急輸送機能の確保及び道路啓開作業を円滑かつ確実に実施可能な道路ネットワークの整備

緊急輸送道路ネットワーク	
第1次緊急輸送道路	国道390号、国道390号バイパス
第2次緊急輸送道路	国道390号（市街地部および新石垣空港以北）、主要地方道石垣港伊原間線、富野大川線、大浜富野線（富野大川から国道390号間）、石垣空港線（事業中）、市道美崎町新栄通り
第3次緊急輸送道路	川平高屋線、平野伊原間線

- ・ 異常気象時の通行規制による孤立地域を減らすための災害に強い道路整備（橋梁や法面の耐震化、越波対策などの道路ネットワークの信頼性向上）

② 災害時に機能を発揮する道路空間の確保

災害時の避難経路の確保や防災拠点機能としても活用できる道路空間を推進する。

- ・ 避難路の確保や津波対策の標高表示等
- ・ 道の駅等の防災拠点機能の強化
- ・ 台風対策のための無電柱化の推進

(4) 安全な暮らしを確保する道路

① 交通安全対策の強化

幹線道路の交通事故防止対策や生活道路の面的な交通安全対策を推進する。

- ・ 道路の線形改良や交差点改良の推進（ラウンドアバウト含む）
- ・ 交差点などの事故多発地点における交通事故防止対策の実施（レンタカー事故対策含む）
- ・ 生活道路の安全を確保する交通規制の実施（ゾーン対策や歩行者専用道路、進入規制）

② 道路機能の維持確保

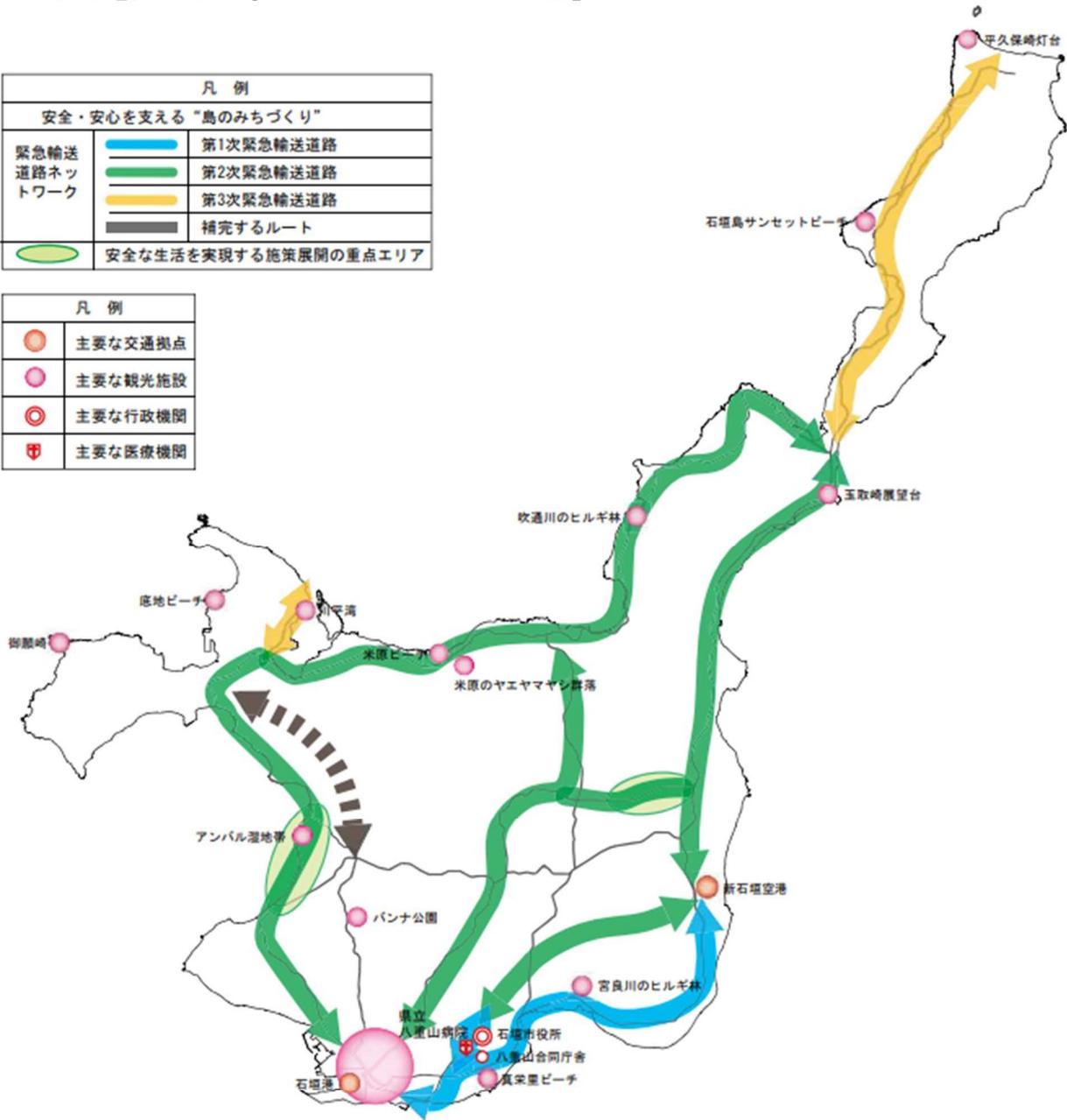
地域のニーズに対応した安全で質の高い道路の維持確保に向け、対策を推進する。

- ・ 適切な維持管理による道路施設の長寿命化
- ・ 地域ニーズにきめ細やかに対応した道路機能の確保

【安全・安心を支える“島のみちづくり”イメージ図】

凡例	
安全・安心を支える“島のみちづくり”	
緊急輸送 道路ネット ワーク	 第1次緊急輸送道路
	 第2次緊急輸送道路
	 第3次緊急輸送道路
	 補完するルート
 安全な生活を実現する施策展開の重点エリア	

凡例	
 主要な交通拠点	
 主要な観光施設	
 主要な行政機関	
 主要な医療機関	



4. 交流を支える “島のみちづくり”

交流を支える“島のみちづくり”では、八重山圏域の交流拠点である石垣島の島内外の交流を促進し、地域経済を支える体系的な道路網の構築を図る“地域交流や経済活動を支援する道路”の視点と、今後の石垣島を取り巻く環境の変化（土地利用、観光需要）を見据えた“環境の変化に対応できる道路”の視点で、体系的な施策を展開する。

(1) 地域交流や経済活動を支援する道路

① 交通拠点間のアクセス強化

八重山圏域の交通拠点の新石垣空港と周辺離島を結ぶ石垣港（離島ターミナル）へのアクセス性の向上に資する道路網の整備を推進する。

- ・石垣空港線

② 八重山圏域の交流を支える交通網の強化

地域の連携を高め、農林水産業をはじめとする地域産業の支援や石垣島内に点在する観光資源、施設等へのアクセス性や周遊性を高める道路網の整備を推進する。

- ・市街地から延びる放射道路網の強化（国道390号、石垣港伊原間線、富野大川線、石垣浅田線、大浜富野線等）
- ・郊外部の横断幹線軸の強化（石垣港伊原間線、新川白保線）

③ 道路種別に応じた道路網の拡充・整理

長期間未着手である都市計画道路の整備を推進するとともに、市街地部における主道路と従道路の整理や、市道と農道の役割の明確化など、利用用途に応じた道路網の拡充・整理を行う。

- ・県道への格上げ（横4号線、市道縦10号線等）
- ・石垣市への移管（国道390号旧道、石垣浅田線の一部等）
- ・市道と農道の再整理

(2) 環境の変化に対応できる道路

① 土地利用の変化に対応した道路整備

石垣空港跡地における新たなまちづくり（防災・医療福祉系機能による拠点型）と連携した道路網の整備を推進する。

- ・石垣空港線
- ・開発地内と周辺道路ネットワークと連続する横断道路

② 観光需要に対応した道路整備

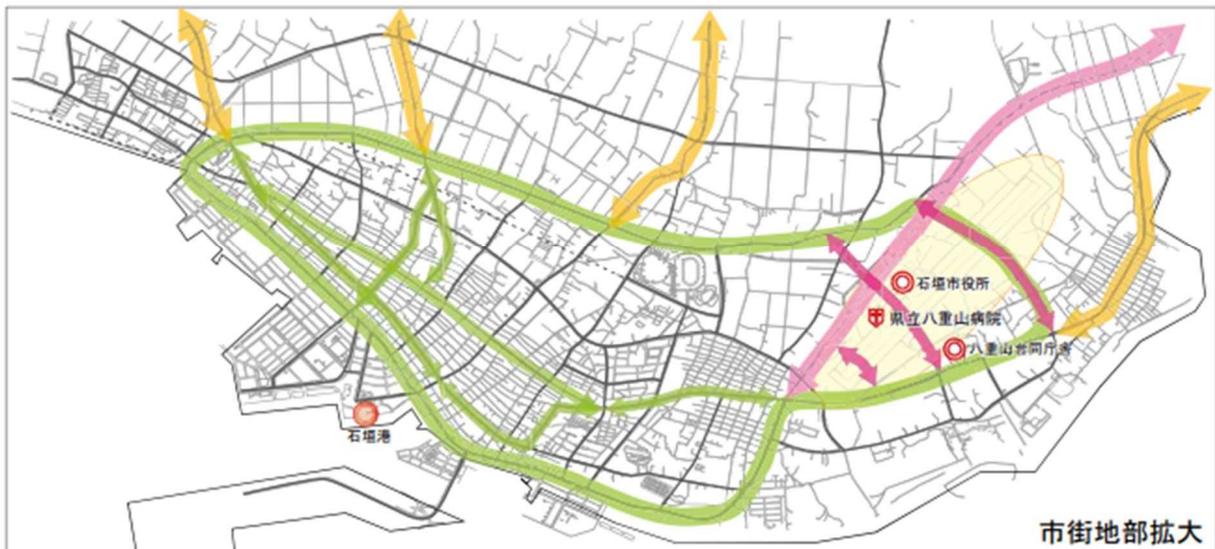
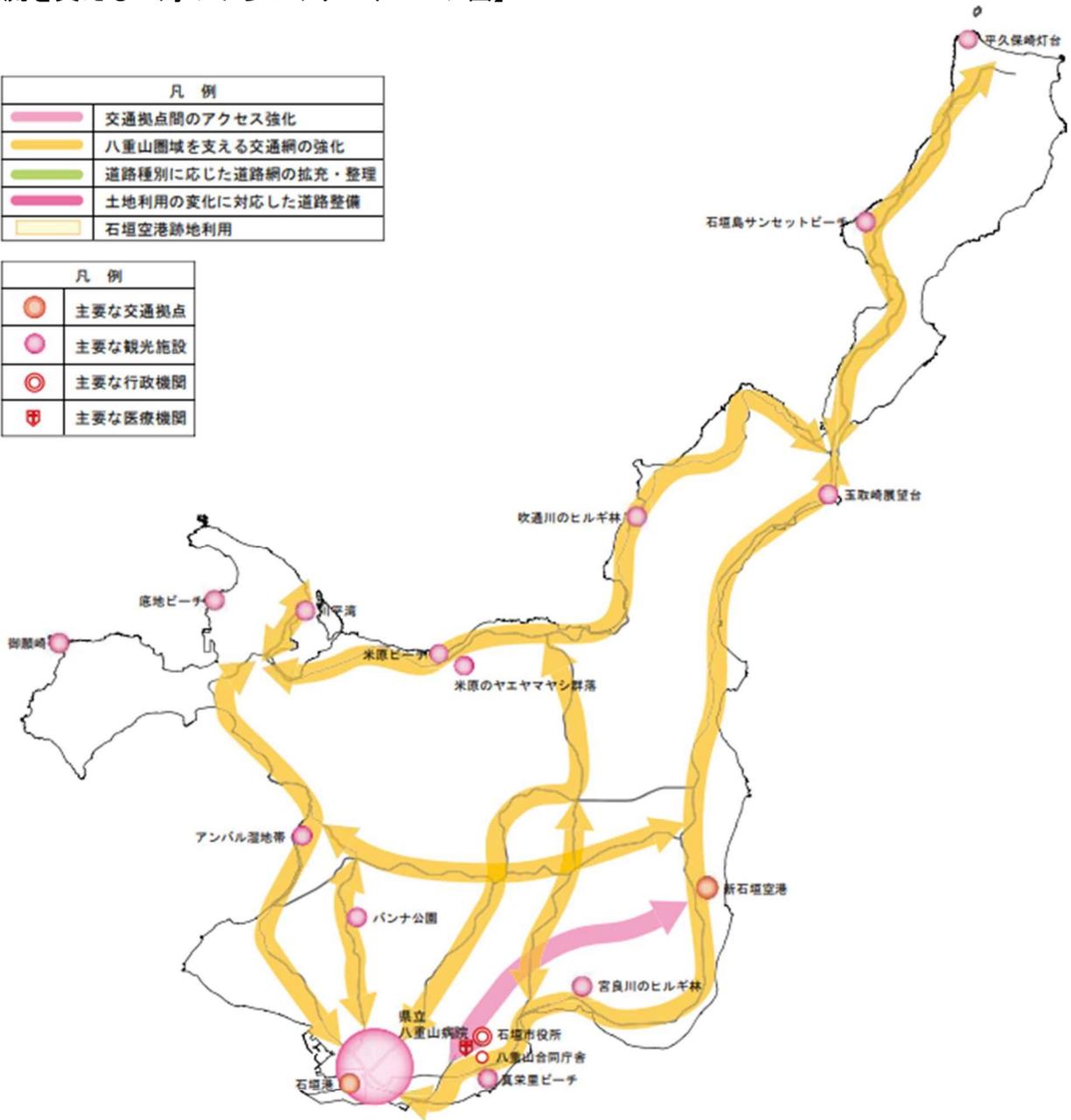
観光需要増加に伴う、レンタカー交通に配慮した道路網および道路空間の整備を推進する。

- ・市街地部におけるレンタカー交通の適正化（経路誘導、駐車場案内等）
- ・観光需要導線を考慮した幹線道路網の検討

【交流を支える“島のみちづくり”イメージ図】

凡 例	
	交通拠点間のアクセス強化
	八重山圏域を支える交通網の強化
	道路種別に応じた道路網の拡充・整理
	土地利用の変化に対応した道路整備
	石垣空港跡地利用

凡 例	
	主要な交通拠点
	主要な観光施設
	主要な行政機関
	主要な医療機関



5. 新技術を活用した発信力のある “島のみちづくり”

石垣島は他地域からの陸上交通の流入が無い島しょ地域としての強みを生かし、自動運転技術、AI 技術などを活用した先進的取組を積極的に実践していくことが可能な地域であり、この先導的な取組を通じて、沖縄県全体の道路環境の改善につなげることが期待できる。本施策では、前述の4つの施策体系を横断する総合的な取組として、“計画・整備・維持管理の効率化・最適化が図られた道路”の視点と“シームレスな交通環境を実現する道路”の視点で、体系的な施策を展開する。

(1) 計画・整備・維持管理の効率化・最適化が図られた道路

① ICT 技術の積極的な活用

八重山圏域の交通拠点の新石垣空港と周辺離島を結ぶ石垣港（離島ターミナル）でのビッグデータ等の収集・分析を行い、道路整備・維持管理の効率化や適正化に向けた取組を推進する。

- ・IoT デバイス等を活用した移動のデータ収集、分析技術を活用した道路政策の実施
- ・レンタカープローブデータの活用によるレンタカーに係る交通安全対策の実施
- ・道路維持管理に係るデータ収集による植栽や構造物の効率的な維持管理の実施

(2) シームレスな交通システム・道路環境を実現する道路

① 自動運転の実現を支援する道路環境の実現

八重山圏域の陸・海・空の交通手段が切れ目なくスムーズにつながるシームレスな交通システム（自動運転等）や島しょ型 MaaS 等の技術開発の実施に向けた道路環境の整備を促進する。

- ・新石垣空港と石垣港を結ぶ、主要幹線道路
- ・島内一周線
- ・半島一周線 等

② 新たなモビリティや取組の実装を支援する柔軟な道路環境の実現

八重山圏域では、主に路線バス等の交通手段を利用した後の目的地までの移動手段は徒歩に頼っており、ラストワンマイルの移動利便性向上に適する交通モードの導入が必要です。

主要な交通結節点や生活拠点、大規模施設、観光地へのシェアサイクルまたは、電動キックボード、小型モビリティ等の新たなモビリティや取組の実装を支援する。

- ・主要な交通結節点や生活拠点、大規模施設、観光地における走行空間、走行環境の確保